

4—62—0

(包紙)「白紙」

4—62—1

(端裏書)

「大谷九右衛門様 八幡村 重兵衛

〔 〕

一筆啓上仕候、時分柄追日御用繁御入可被成候、其後者

大御無音申条無御座次第^二御座候、弥御勇勝^二被成御座目出度

御儀奉存候、私別意無御座候御休意可被下候扱時ならざる儀^三付
近頃申延候も不都合ケ間敷奉存候へとも余儀なく次第^二付

得貴意候余之儀^二も無御座候、先年伯父貴官大夫

小谷^江被參候時分持參之鎗壠筋御座候是^著昔日

尾高之城主松原盛重公より軍功賞によりて主君より

大谷家^江拝領之鎗之由私共若年より聞伝へ居申候處

既由緒有之名器^二付持鎗^二致養家被致候由^二御座候

然ル處小谷家旧家之事故右等之道具所持不致共

事闕候儀も無御座候、唯見懸宇和向ばかり之美事

成るものにて宜敷候間能出合も有之候へ^者交易いたしきれ候様

噂致候儀も御座候間私与風愚意^二相考候處尊家^二有之候^{而者}

重代相伝之道具^二も御座候へ^者尊家^江御取かへし被成候^{而者}

御先祖へ体し候^{而も}可然意儀^二も愚考仕候、其上此中小谷へ

罷出兼々存心之処咄致候処先方よりも同様被申出候、何成共
鎗之分毫間半式間迄之処○右断申候趣御考も御座候へ^者

御返報可被仰聞私取扱仕度候、願者差当り御進^二

○
引替^{二者}無御座候共何卒顧御進メ申度存望^二御座候

之品々^{二者}御用繁中^{二者}御座候へ共思召申候荒々

御用
御報可被仰聞奉頼上候、早々、以上

十一月十四日

申度候
御進メ
御成様
御引替